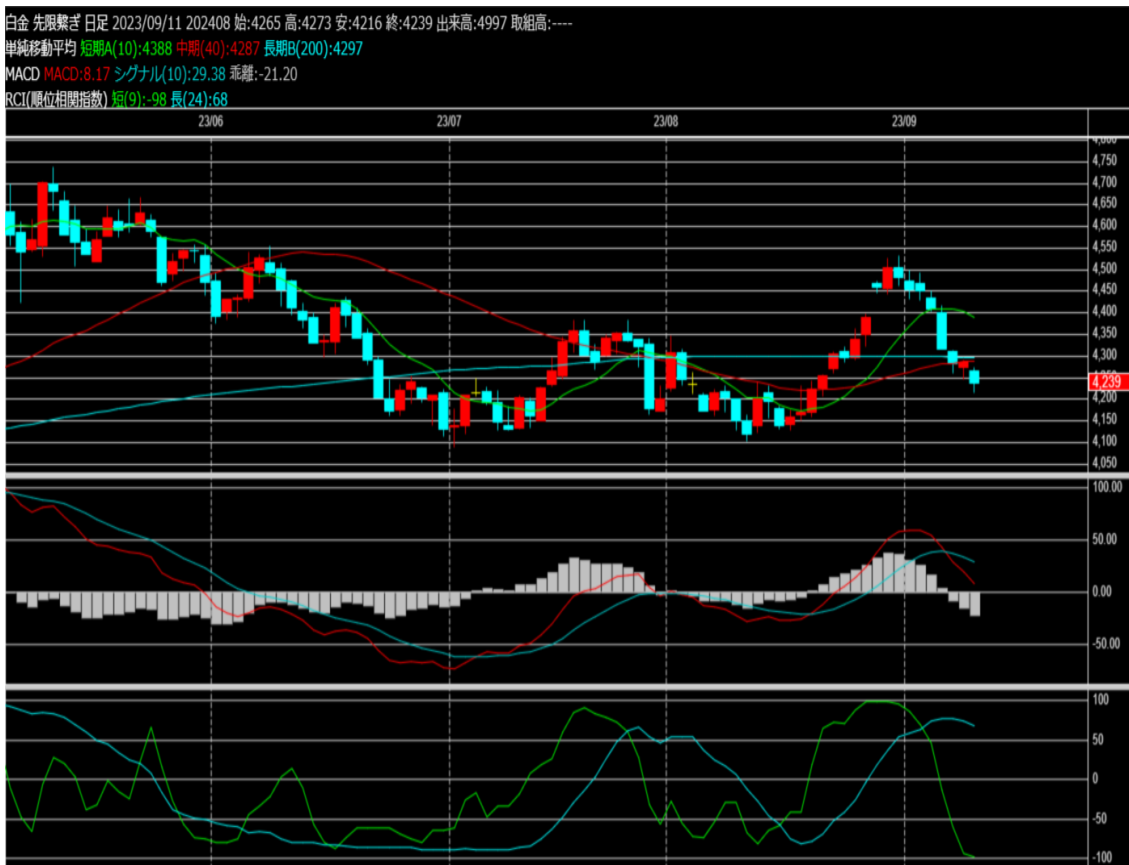


## <白金標準、4200 円以下は「買わないリスク」が高まる・・・>



(出所：オアシス)

碧桂園（カントリーガーデン）の元建て債の償還を3年間延長で合意し、2250万ドルのドル建て債の利払いを履行するなど碧桂園のデフォルトは回避されている。しかし中国の非製造業 PMI や貿易収支が景気後退を示唆するなど中国の景気対策に対する不確実性が高まりを見せて白金価格は売られている。また WPIC 第2四半期 PGM 需給報告では、2023年の需給バランスは、100万オンス（31トン）の供給不足を予想している。特に需給では供給が横ばいに対して需要は27%増加を指摘し、プラチナの地上在庫が供給量の6週間分まで減少すると推定しており、その事は年末に向け価格の見直しが強まると予想している。

特に先週は南アフリカの国営電力会社エスコムは、4日から24時間のステージ6の負荷制限を実施するなど鉱山稼働率は低下を示す可能性は高い。ただ週末には欧州市場の天然ガス価格が急上昇し、ユーロ安に伴いNY白金が900ドルを割り込むなど下値模索の展開を見せている。しかし900ドル以下は短時間しか存在しない水準であり、白金標準先物でも4200円以下は「買わないリスク」が高まる水準に思われる。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルも下げている。RCIは短期が-100%に届き、長期は切り下げだすなど、目先売り込まれた状態に思え、10日移動平均線（4388円）に向けた自律反発に備えるのが妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引3,220,000円(2023年9月11日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復87,120円(2023年9月11日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>